



ロシアによる人権団体「メモリアル」の「過激派」指定を強く非難する

ヒューマンライツ・ナウは、ロシア当局が人権団体「メモリアル」を恣意的に「過激派」と指定し、その活動を禁止すると同時に、ロシア国外における同団体の重要な活動を妨害しようとしている決定を強く非難する。この措置は単独のものではなく、ウクライナに対する武力紛争の勃発以来、ロシア当局によって行われている組織的な弾圧の一環である。これまでに 343 以上の団体が「望ましくない」という烙印を押され、20,813 人が「テロリストおよび過激派リスト」に載せられている。¹これにより、説明責任、真実、歴史的記憶に向けた取り組みが直接的に損なわれている。

捏造された法的根拠

2026 年 4 月 9 日、ロシア最高裁判所は、人権活動弾圧を強化するキャンペーンの一環として、法務省に対し「国際社会運動メモリアル」を「過激派」組織に指定するよう要請した。²この決定を正当化するため、ロシア当局は、かつてロシア国内で「メモリアル」を構成する 2 つの法的に認められた団体（メモリアル人権センター、メモリアル・インターナショナル）以外も包摂する、実在しない「運動」という概念をでっち上げ、それを包括的な法的口実として利用した。

ロシア政府が反過激主義法によって付与された権限を濫用し、市民社会を沈黙させるのはこれが初めてではない。2026 年 4 月、サンクトペテルブルク市裁判所も同様の枠組みを用い、実在しない「国際 LGBT 運動」をでっち上げた上で、ロシア LGBT ネットワークを「過激派組織」に指定し、同団体の活動に対し全国的な禁止令を課した。³さかのぼって 2024 年 6 月、最高裁判所はすでに、55 の先住民族および少数派団体を包含する「反ロシア分離主義運動」など、実在しない運動をでっち上げ、それらを「過激派」と指定していた。¹こうした戦略は活動家を地下へと追いやるとともに、市民社会を解体するものである。

¹ <https://www.ohchr.org/en/press-releases/2026/04/strategy-blattant-abuse-counter-terrorism-and-extremism-laws-destroy-russian>

² <https://www.hrw.org/news/2026/04/10/russia-memorial-rights-group-declared-extremist>

³ <https://www.amnesty.org/en/latest/news/2026/04/russia-russian-lgbt-network-is-labelled-extremist-in-escalating-crackdown-on-lgbti-rights/>



ノーベル賞受賞団体への沈黙強要

「メモリアル」は、権力を批判する権利を擁護し、すべての市民の基本的権利を守るという使命のもと設立された、ロシアで最も歴史のある人権団体の一つである。戦争犯罪、人権侵害、権力の乱用を記録する卓越した取り組みにより、2022年にノーベル平和賞を受賞した。⁴

設立以来、メモリアルは武力紛争地域における人権侵害や国際人道法の違反を監視してきた。ウクライナで公式の監視ミッションを実施した最初のロシアの人権団体として、その実態調査活動は、ロシアの侵略開始以来行われた残虐行為の規模と深刻さを明らかにする上で極めて重要な役割を果たした。⁵

今回の「過激派」指定は、2021年末から2022年4月にかけて国内の2つの「メモリアル」組織（メモリアル人権センター、メモリアル・インターナショナル）に対して解散命令が出されたことを受け、メモリアルを沈黙させようとする長期にわたるキャンペーンの集大成である。この裁判所の判決を受け、「メモリアル人権保護センター」はロシア国内での活動終了を発表した。⁶ 深刻な懸念として、法的手続き全体が、非公開で行われたたった1回の審理で結審し、事件記録は「極秘」に指定された。これにより、事実上、メモリアルの弁護士が手続きに実質的に参加することを阻まれたのである。⁶ 手続き上の不備と、正当な法的根拠の完全な欠如は、この措置を推進する抑圧的かつ恣意的な意図をさらに露呈させるものである。

国境を越えた萎縮効果

こうした弾圧の影響は、ロシア国内にとどまらず国境を越えて及んでいる。2026年2月、ロシア法務省は、スイスに拠点を置く「メモリアル国際協会」とドイツの財団「ツークンフト・メモリアル」をロシアの「望ましくない組織」リストに追加した。これは、メモリアルの国際的な活動基盤を消滅させ、その世界的なアドボカシー活動を封じ込めようとする意図的な試みである。⁷ さらに、「国際社会運動メモリアル」が「過激派」と指定されたことで、このような国境を越えた萎縮効果は一層強化されている。

⁴ <https://www.nobelprize.org/prizes/peace/2022/memorial/facts/>

⁵ <https://memorialcenter.org/ru/news/pervaya-missiya-rossijskih-pravozashhitnikov-v-ukraine-zapis-konferenczii>

⁶ <https://novayagazeta.eu/articles/2026/04/09/v-rossii-zapretili-memorial-priznav-ego-ekstremistskim>



「過激派」指定の影響

今回の禁止措置は、強制捜索や恣意的な逮捕を通じて、人権活動家や擁護者を犯罪者扱いしようとする大規模なキャンペーンの一環である。⁷ この決定は、弾圧のさらなる拡大を正当化するとともに、メモリアルが行ってきた活動を支持するあらゆる活動や個人を迫害するための土台を築くものである。その対象は、組織がどの国で登録されているか、あるいは当該プロジェクトとの実質的な関係の有無を問わない。

「過激派」の指定は深刻な結果を招く。現在、「メモリアル」の活動への参加や資金提供は、最高12年の懲役刑の対象となっている。⁸ その結果、「メモリアル」のソーシャルメディア上の投稿に「いいね」を付けたり、シェアしたり、あるいは出版物で同団体に言及する際に「過激派」という表示を付けないことさえ、刑事訴追の対象となり得る。指定された「運動」と何らかの関わりがあるとみなされた者は、拘束や刑事訴追の危険にさらされる。これは、恐怖を広め、公式の物語に対するあらゆる反対意見を犯罪化するための意図的な戦略である。

行動要請

ヒューマンライツ・ナウは、国際社会に対し、これらの措置を明確に非難するよう呼びかける。現在の状況は、民主主義社会の根幹をなす「表現の自由」および「集会の自由」に対する直接的な攻撃にほかならない。国際人権条約の締約国として、ロシアには、メモリアルのメンバーや支援者を含む、自国の管轄下にあるすべての人々に対して、これらの権利を保障する法的義務を負っている。

ヒューマンライツ・ナウは、メモリアルおよびこの弾圧の対象となっているすべての人々と固く連帯する。我々はロシア当局に対し、「過激派」指定を直ちに無条件で撤回し、メモリアルが自由に活動できる環境を回復するとともに、人権擁護者に対するあらゆる形態の嫌がらせや迫害を停止するよう求める。

⁷ <https://www.amnesty.org/en/latest/news/2025/12/russia-prominent-human-rights-defenders-targeted-under-undesirable-organizations-legislation/>

⁸ <https://www.hrw.org/news/2026/04/10/russia-memorial-rights-group-declared-extremist>